あがりて、つゝしんでかしこまる也、其後中間御こしをさしよする也、其時左の手をこしの長柄に打掛て、右の手にてこしの長柄をかゝへてよするなり、妻戸をたつる時は、下まへの方より押とづる也、さて又こしの繩も、右にとめて、又左にとむる也、是もとめやう、男女によると云

一儀有、○略中

一よめ入之時、迎の人に輿渡す事、輿を立て、さて互に一禮申て、先右の方の長柄を請取せて、軈て左をとらすべし、こしの後よりまわりて請取べき也、

〔宗五大草紙上〕人の召仕れ候仁心得らるべき事

一輿寄の妻戸のうはがさね下がさね、こしのよる時さた候はず候、たゞ武家には、こしの左をあがりと心得候、公方樣御劔の役人も、御妻戸の左に祗候也、又私ざまにては、輿ぞへの役人兩人あり、妻戸のうはき打たる方、輿の左あがり、右はゑたで、女房衆はめして後、こしをそと御たゝき候、其時えんより兩人かきおろし候へば、こしかき請取候、公方樣には、御こしかき計あつかひ申候、

〔奉公覺悟之事〕一私にてこしよせの時、こしぞひのさむらい兩人、えんへあがりてこしをよせ候、御成には、御はしり衆は手をかけられず候て、御こしかきばかりあつかひ申候也、其時御劔の御やく、妻戸左の方の御えんに祗候也、

新輿乘始

〔看聞日記〕應永廿六年十二月廿九日、今春新造輿、于今不乘、今日吉日之由在方申之、仍乘始、

輿長

○按ズルニ、婚嫁ノ時ニ於ケル新輿乘始ノ事ハ、禮式部婚嫁篇ニ詳ナリ、

〔延喜式十三大舍人〕凡車駕行幸者、舍人四番以十二人爲一番供奉、御輿長八人、駄鈴四人、並著緋袍白布袴帶、若皇后有幸、又供御輿長、裝束同前、

〔延喜式四十五左右近衞〕凡行幸之時、御輿長五人、擇近衞膂力者、預前注交名奏之、並著紅染布衫、不帶弓箭、